

大学生による自然豊かな地域で開催されるスポーツイベントの活性化
～「姫ボタル・瀬川平トレイルラン」の課題の検討～

阪南大学流通学部3年生
井上幸涼、花田絹香

【背景】

近年のランニングブームにより、東京や大阪などの都市部では大規模なランニングイベントが開催され、参加者だけでも数万人の人々が集まっている。他にも「トレイルラン」や「トライアスロン」のような自然を活用したスポーツイベントで地域の活性化を試みる事例が増えてきている。しかし、そういった自然が豊かな地域は過疎化が進んでいる傾向があり、イベントを運営する組織の中では若者の人材不足が問題となっている。

このような問題に着目し、筆者らが在籍する阪南大学流通学部のスポーツマネジメントコースでは、3年間にわたって、兵庫県香美町で開催されている「姫ボタル・瀬川平トレイルラン」の運営に携わってきた。そこで本研究では、2018年6月24日に実施した「ランナーへのアンケート調査」、「エイド*の運営」、「プロモーション動画の作成」の結果を基に、このイベントの今後の課題を検討することを目的とする。

*エイドとはランナーが給水や食事を摂る場所のことである。

【方法1：ランナーへのアンケート調査】

対象者：ランナー（有効回答数：195人）

調査内容：「コストパフォーマンス」、「参加記念品」、「スタッフの対応」、「エイドの食べ物」、「コースがよかった」、「宿泊施設の食事や対応」など全12項目について「良い」、「やや良い」、「やや悪い」で尋ねた。

回収方法：走り終わったランナーにアンケート用紙を配布し、記入後にアンケート受付BOXに投函してもらった。

【方法2：エイドの運営】

コース中にある11エイドの中の最後のエイド（ゴールまで約2km）を「阪南エイド」と称し、学生7名で運営した。主に、手作りレモンチョコレート、冷麺、コーラ、オレンジジュースなどをランナーに提供したり、太鼓とスティックバルーンを用いてランナーを応援した。

【方法3：プロモーション動画の作成】

大会1カ月前の2018年5月26日に、コースの下見を行い、大会の実行委員長とプロモーション動画のコンセプトについて打ち合わせをした。その後、大会の前日に実際のコースで撮影の練習をし、本番当日には学生3名で役割を分担し、コース内でランナーを追いかけながら撮影した。

撮影には、DJI Osmo Mobile(スタビライザー)、ハンディカム、iPhoneを用いた。大会終了後からAdobe社のPremierePro・Auditionを使用して動画の編集を始め、約5か月後の2018年11月29日に完成した。なお、アプリケーションソフトの操作方法や動画の構成などについては、定期的に動画作成の専門家からアドバイスを受けた。

【結果1：ランナーへのアンケート調査】

対象者の性別は、男性は75%、女性は25%で、年齢は40代が最も多く(42%)、70代が最も少なかった(1%)。イベント内容の評価は、図1のような結果となった。また、「来年度も参加したいか」という質問に対しては85.0%が「はい」と答えた。自由記述欄には、「景色が綺麗でコースがきつくて良い」や「来年もぜひ参加したい」などかなり満足度が高いことがわかった。しかし、本大会の必須持参物であった「熊除けの鈴」が参加記念品だったことについて、否定的な意見が散見された。

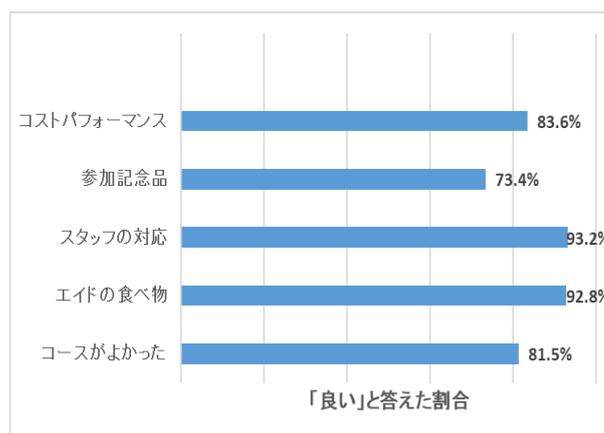


図1：アンケート結果

【結果2：エイドの運営】

アンケート結果から「スタッフの対応」の項目で、「阪南大学生の声援により元気がでた」や「レモンのチョコレートがおいしかった」などランナーからの評価は高かった。実際にも多くのランナーから「ありがとう」や「来年もよろしく」などと声を掛けられた。しかし、多くの冷麺が余るなどの課題が残った。

【結果3：プロモーション動画の作成】

今回の動画では、「参加したことが無い人には大会の雰囲気伝える。今大会に参加した人には、思い出に浸るためのアフタームービーとして見てもらう。」をコンセプトとした。そのため、風景とランナーを中心に撮影したが、素材が多すぎて編集時の動画の選択が困難だった。また、高度な技術を使おうとした結果、完成までに時間がかかってしまった。

【考察】

アンケート調査により満足度がかなり高いイベントであることがわかった反面、参加記念品の「熊除けの鈴」は、募集要項に記載することで大会の満足度を更に上げることが出来たと考えられる。その他に、今大会までは、年齢問わず男女それぞれ上位3名だけが表彰されていたため「年代別表彰をしてほしい」との意見があった。そのことから、幅広い年齢が参加している本大会では、年代別の表彰も満足度を上げる不可欠な要素となると考えた。

また、ゴールまで残り2km地点にあった阪南エイドで「元気づけられた」という声が多かったことから、このような地域のイベントにおける若者の力の重要性が示唆された。しかし、提供した冷麺は栄養素が高いが阪南エイドまでに約30km走ったランナーは食欲がなく、果物やドリンクなどの水分量が多いものが好ましいことが明らかとなった。

最後に、実際に動画を作成した結果から、撮影から編集の過程の中でコンセプトや全体のスケジュールなどの情報を撮影班全員で共有することが最も重要であるとわかった。今後はこの動画を大会ホームページに掲載し、次回大会でのアンケート調査でプロモーション動画の効果を測定することが課題となる。以上の課題を大会実行委員会に提案し、引き続き我々の力で本大会を盛り上げていきたい。